

# インターンシップに参加する動機に関する研究

滋賀大学 山下悠

## 1 目的

本報告は、企業の早期学生確保のための活動として必須のものとなってきたインターンシップの役割について、参加する大学生からの視点について統計的な考察を試みるものである。

現在多くのインターンシップが企業あるいは経済団体などによって開催され、主に3回生の大学生が参加している。このようなインターンシップについての研究は、見館（2017）で整理されているように、インターンシップの役割や定義に関するものや、インターンシップの効果を高めるための設計や評価に関するもの、インターンシップ後の就職活動につながる能力や意識について分析されているものが多く、インターンシップに参加する動機についての研究は少ないと言わざるをえない。インターンシップに参加しないと卒業することができない大学も多くなり、就職活動どころか大学を卒業するために必須のものとなってきた現状では、「参加しなければならない」という外的要因以外の動機が無いまま参加している学生もいる可能性は高い。

本報告では、インターンシップに参加する学生がどのような動機で参加しているのかについて考察を行うことで、企業・学生の双方にとって最適なインターンシップの方法について検討する一助となることを目指したい。

## 2 方法

本報告では、日本の四年制大学で開催されているインターンシップ制度を用いてインターンシップに参加した学生が提出した申請書類のデータ、主に志望動機欄の記述内容を用いて統計的な分析を行う。調査対象となる大学では平成13年度からインターンシップ制度を設けて単位認定をしている。なお、本研究におけるデータ使用に際しては、調査対象となる大学の研究倫理委員会の承認を受けている。

## 3 結果

現在在学している学生に対する予備調査では、企業に属してから役立つ能力を得るためというより、むしろ就職活動に役立つ能力を得るためにインターンシップに参加したという意見が多かった。

## 4 結論

本調査の結果および結論については、当日のポスター資料に基づいた報告での説明を通じて、提示する。

## 文献

見館好隆, 2017, 「インターンシップによるキャリア育成の効果」中原淳『人材開発研究大全』東京大学出版会, 143-175.